

新健康協会では、新しい健康法を伝える「健康新聞」を毎月発行し、人間のもつ治癒力や適応力をお伝えしています。肉体的、精神的なコトでお悩みの方も是非一読されてみてください。

健康新聞

発行所
発行人

新健康協会

〒813-0001

福岡市東区唐原6-7-1

TEL:092-661-1531

https://shinkenko.jp



次の御論文は、明主様(当協会の教祖)が、昭和二十四年に発表されたものであります。世界平和と心身共に健全な人間作りを目指す活動に御理解を頂ければ幸甚です。

善を楽しむ

私はつくづく世の中を観ると、多くの人間の楽しみとしていくところのものは、善か悪かに分けてみると、情ないかな、どうも悪の楽しみの方がずっと多いようである。いな楽しみは悪でなくてはならないように思っている人も少なくないらしい。

まず一家の主人公であるが、生活に余裕ができると花柳の巷へ行ききたがり、二号などを囲いたがる。しかも、それがための金銭は正当でない手段によって得るほうが多いようであるが、勿論それは悪に属する行為である。それがため危ない橋を渡り、国家社会に損失を与えたり、自分自身としても家庭の円満を欠き、不安の生活を送ることになる。しかも成功と享樂が人生最後の目的であるかのごとく思惟し、知らず知らずのうちに現世的地獄に転落するのであって、そういう人士は中流以上に多いこと

ある。と共に、それら成功者を見る大衆は外面の様相のみに眩惑され、人生これなるかなと羨望し、そのまねをしたがるから、何時になっても良い社会とはならないのである。また正直者はバカを見るとき言葉もあり、まじめに世渡りをしている者は下積みになり、危ない綱渡りをする者が出世をして豪華な生活をするという現状である。そのほか官吏の役得、会社員の不正利得、政治家の闇収入等々、全く俯仰天地に恥じない人は今日何人ありやといった程である。

ここにおいて、私は善を楽しむことを教えたいのである。即ち相当社会に頭角を現すようになっても、柳暗花明の巷に出入りすることはできるだけ避け、余財あれば社会公共のために費し、困窮者を助け善徳を施し、神仏に帰依し、ときどきは家族を引きつれ映画、演劇、旅行等を楽しむのである。

こういうようなやり方であれば、一家は団欒し、妻は夫を尊敬し感謝するようになり、子女のごときも、まず不良になる心配はないであろう。従って経済不安もなく、不摂生もなく、健康も恵まれ、長寿も保ち得らるるわけで、日々を楽しみ、心は常に洋々たるものがある。明治の富豪として有名な大倉喜八郎氏はおもしろいことを言った。「人間長生きをしたければ借金をしないことである」と。それは借金ほ

ど精神的苦痛はないからである。私も二十年間借金で苦しんだ経験があるので、よく分かる気がする。

しかるに、現代人の中には暴露すれば法にふれたり瀆職罪になったりするようなことをなし、暗闇の取引を好み、妻君に知れたら大騒動が起こるような秘密を作り、高利の借金をし、常に戦々兢兢々として不安の日を送っており、その苦痛を酒によって紛らそうとする。酒が何程高くなっても売れるのは、そういうわけもある。従って健康を害し、短命となるのは言うまでもないと共に、こういう泥沼生活に入ったものは、なかなか抜け出ることができないのが通例である。まず抜け出る唯一の方法としては宗教に入ること、それ以外に方法は無いであろう。

私は、以上のごとき善悪二筋道を書いてみた。悪を楽しむ人と善を楽しむ人である。読者諸士よ、卿等はいずれを選ぶや、熟慮を望むのである。

浄霊体験記

- 苦しかった日々が ウソのように消えた
- 寝たきりの状態が 歩けるように...
- ドン底から救われ 八十六年の人生!
- 夜中に息できず 浄霊で楽になる

浄霊によって真の健康体となり、運命が向上し、幸せになられた方々の体験でございます。

重度のシッシン

苦しかった日々が
ウソのように消えた



山田恵里子さん(左)と
長男の啓悟さん(右)

武雄支部
山田恵里子(60)

私の長男、啓悟は、生後半年頃からシッシンが始め、最初は、あせもかな？と思っていました。カサカサした皮膚に異常なくらい痒がる息子を見て、すぐに病院に行きました。小児科の医師は、「軽いシッシンだから」と塗り薬を出してくれましたので、毎日のように背中いっぱい塗りました。しかし、なかなか痒みが取れず、だんだん皮膚がさめ肌になり、白い粉をふいてきました。

は、ジクジクの皮膚になり、つらそうでした。その間にもたくさん皮膚科、小児科、耳鼻科と病院を駆け巡りました。それでもなかなか治らず、薬も塗り薬、飲み薬、漢方薬と増えていき、不安な気持ちが増していききました。

五年ほど薬づけの状態でしたが、良くなるどころか、どんどん悪化して、夜も眠れず、一晩中、子供の体をさすってやるのが私の仕事でした。毎日、体中をかきむしり、血まみれの我が子を見るのがつらくて、このままでいいのか、今後どうしたらいいのかと日々悩んで、途方に暮れる思いでした。

すると、息子が五歳の時、近所で同じ保育園に子供さんを預けていた多久島晶子さん(会員)より「薬を使わなくてもいい所があるよ」と言われ、浄霊の話を知り、息子を助けてあげたい思いでその日から多久島さんに支部へ連れて行ってもらいました。

支部に行くと、私はすぐに「三カ月でシッシンが治りますか？四月からは小学校なので、それまでに治してあげたいのですが」とお聞きしますと、やさしく「大丈夫ですよ、三カ月では無理かもしれませんが、しばらく続けて下さい」と言われ少し安心しました。

それまでも私はシッシンについての本を読んだり、友達から薬の副作用が怖いことも聞いて自分なりに知識が入っていると思っていました。根本的な原因は知らず、ただ親の気休め薬を塗っていたことに気づきました。

そして、支部の先生より、「シッシンは体の中の汚いものを排泄するためのお掃除だから、出るだけ出れば皆さんきれいになっていますよ」と教えていただきました。熱が出たり、鼻水、下痢など、みんな体の中の毒素を出すための浄化作用ということをお聞き

息子の笑顔に救われる…

し、初めて聞いたお話しに、目からうろこが落ちる思いでした。知らなかったとはいえ、今までやってきたことが間違いであったと気づきました。

息子が小学生の頃は、週に一度、支部に行き、浄霊を受けました。薬を使っていた時よりも痒みや血がどんどん出て来ました。これが体の中の掃除で、息子の体が少しずつ良くなればいな…と安心と不安が交錯する中、支部に通いました。支部にお参りするたびに先生や会員さんから温かい励ましの言葉や体験談を聞いて、勇気をいただけていました。

小学三年生の頃はシッシンが一番ひどく、いじめられたこともありましたが、浄霊を受けることで強い心をもって、元気に登校出来ました。その頃から多久島さんのお宅にも学校へ行く前に浄霊を受けに行くようになり、忙しい朝にもかかわらず、快く引き受けてくれた多久島さんに心から感謝しております。

一カ月ほど経つと、これまでお尻いっぱい血と膿でピツタリくっついてたパンツがつかないようになり、みるみるうちにシッシンが落ち着いてきました。これはすごいと思いましたが、浄霊で体が楽になります。一緒に心の中(魂)まで穏やかにしていただくことに気づきました。いつもつらそうにしていた息子の表情が明るくなり、笑顔が出てきたのが一番嬉しかったです。私はやっと救われれました。本当に嬉しかったのを生涯忘れることは出来ません。あのつらかった

日々がウソのように消えました。

それからも中学、高校と季節の変わり目やストレスがあるとシッシンが激しく出ました。しかし六年間、ハードなスポーツのバドミントンをやりながらたくさん毒素を出していただきました。浄化作用が体内の掃除であることを身にしみて感じております。

高校を卒業する前の二月に入会し、会員となり、春には無事、就職も決まりました。シッシンもほとんど目立たなくなり、元気に仕事が出来、大変喜んでいきます。

今、私と家族が、明主様の御守護の中で幸せに、そして元気に生活出来ていることに心より感謝しております。

(佐賀県武雄市)

脳卒中

寝たきりの状態が
歩けるように…

ネパール・バナパ支部
ダルマ・パクタ マナンダール(69)



私は以前からお酒をよく飲み、たばこもよく吸っていました。そして今から六年前、私は脳卒中になって病院に

浄霊

浄霊は、大自然のエネルギーであり、病気やあらゆる問題で苦しんでいる人、悩んでいる人を救う方法です。浄霊によって魂は清浄化され、肉体が健康になっていきます。まずは試されてみてはいかがでしょうか。

運ばれました。何とか一命はとりとめたものの、マヒは残ってしまったので、病院で治療を受けながら、リハビリも行っていました。しかし、なかなか思うようには行かず日数だけが過ぎていきました。病院からも、「これ以上は面倒をみるのが出来ない」と言われ、退院せざるを得ませんでした。

この時、私はまだ寝たきりでしたので、今後はどうしたらいいだろうと悩んでいると、家族が「以前友人から聞いていた浄霊を試してみたら」と教えてくれました。私は少しでも良くなればと思い、浄霊を受けました。すると体の調子が良くなり、浄霊を受け始めて二週間でマヒも良くなり、起き上がれるまでに快復しました。本当に浄霊の力はすごいと思いました。ただただ感謝するばかりです。

今では支部まで歩いて行くことが出来、日々の生活にも支障はありません。

(ネパール・バナパ)

余命十日の母 救わる

ドン底から救われ 八十六年の人生！

唐津支部
川野信江 (76)



昭和二十三年、二十七歳だった母は、出血の状態が続いていたので、婦人科医に診察してもらおうと「子宮内膜炎がひどいので手術をしなければならぬ」と言われ、手術をしたそうです。しかしその後、手術をしたところが開いてしまいましたので、すぐに他の婦人科医で診てもらおうと、「子宮と卵巣が内臓に癒着しているから再び手術が必要」と言われ、再手術をしましたが、横腹が引きつって痛み、再び診察に行くと「もう一度手術をする」と言われ、母もさすがに恐ろしくなってきたそうです。そのため手術をする気にもなれず、その上、心臓が悪くなり、貧血やめまいもひどくなったそうです。それから三年間、種々の薬を服用したのですが、益々悪化し、胃腸も痙攣し、モルヒネの注射をするようになりました。それでも効き目はなかつたようです。最後に診てもらった大病院

院では「余命十日、長く生きて二週間」と宣告され、このまま死を待つばかりと、悲しみのドン底にあったそうです。そんな時、昭和二十八年、母が三十二歳の頃、知人から「浄霊という方法があるから試してみたら？」と勧められ、母は救われたい一心で浄霊を受けに支部へ行きました。すると一回目の浄霊でめまいが軽くなり、気のせいかと思っていたのですが、五回目の浄霊を受ける頃には体がポカポカと温かくなるのを感じたそうです。そして一カ月が経つ頃には、ひどかった動悸や息切れ、めまいも良くなり、食欲が出て顔色が良くなったと聞きました。その後も浄霊を続け、一年経つ頃には胃も子宮の方も良くなり、見違える程に元気になったのです。母は浄霊によって新しい命をいただき、八十六年の人生を元気に生き、最期まで明主様への感謝を心に、とても幸せに過ごしました。

私の体験

私は平成二十年（当時六十二歳）の時に精神的な病気を経験しました。突然、頭の具合が悪くなり、意識が遠のいているような気がしたので、少し横になりました。そのまま浄霊を受けると、下痢が出てスツと楽になり、意識もはっきりと戻りました。しかしその後、再び少しづつ頭の具合が悪くなり、ひどい時は自分の食べるもの、着るものまで、何一つ考えることが出来ませんでした。そのようにひどい時は何度も浄霊を受けました。すると頭や足の重い感じが二、三日で楽になりました。その後、道路を走る車の音が気になり、頭全体に響いて具合が悪くなる

呼吸困難

こともありました。浄霊を受けると徐々に楽になっていきました。おかげで食欲はあり、寝込むこともありませんでした。その後も浄霊を受ける度に頭も身体もスッキリしてきました。十カ月過ぎた頃からは、頭を使うことも苦でなくなり、思いつきり身体を使えるようにもなっていき、考える時も頭が痛くなることはありませんでした。浄霊を受けることがとても幸せで、日々、明主様に心より感謝申し上げます。困っている方がおられたら、浄霊を試してほしいと思います。（佐賀県唐津市）

夜中に息できず 浄霊で楽になる

台湾・高雄支部
山下裕昭 (30)



私は両親が新健康協会の会員であったため、浄霊を受けて育ちました。母は蓄膿症があったり、頭痛があったりしたので小さい頃よりたくさん薬を飲んでいて、いろいろな治療をして

いたようです。十八歳頃からは肩こりがひどくなり、頭、延髄、首肩が以前よりも痛くなり悩んでいたそうです。お灸に加え頭に針治療をしたり、マッサージなども試してみましたが、良くなることはなかったそうです。病院に検査に行っても、「異常はなく、自律神経痛だろう」と言われるだけで、どうすることも出来ずに過ごしたそうです。こうして悩んでいた昭和六十年、母が二十歳の頃、親戚より浄霊の話聞き、すぐに支部へ行ったそうです。この時、浄霊を受けて楽になるのを感じたので、その後も浄霊を続けてみることにしたそうです。浄霊を続けると、今までの辛いことが嘘のように楽になり、その後、迷いなく入会したそうです。



私は、高校に入學して間もなかった時、とても緊張して生活をしておりました。帰宅すれば食事をとり、すぐに休むという生活でした。また、その年は毎年九月にある体育祭が学校の都合で四月下旬に予定されていました。ただでさえ緊張で普通の生活が出来ていなかったのに、性格も分からない初めて話す同級生や先輩がほとんどという状況の中で体育祭の練習をしないといけなかつたので、体がついていかず精神的にとっても疲れていたのを覚えています。

四月中旬、その日もいつものように帰宅しご飯を食べ、すぐ寝ました。しかし、深夜十二時半頃、急に目が覚めました。すると呼吸をしたくてもどうにも出来ないという事に気づき、すぐに近くの部屋にいた両親の所へ行きました。私の顔色が悪くなっていたので、母はすぐに支部へ電話をして御守

浄化作用

人間には体内の毒素を排除して健康を促進しようとする働きがあります。例えば、カゼの場合、蓄積してきた不純物や体外から入ってきた毒素を浄化するために熱や痛みが出ます。そして、その結果ハナやタンなどが出て体の中が掃除され、霊・体共に清浄化されます。その毒素排除の過程を「浄化作用」と言います。ですから浄化作用は、体の不調和を調和させる大切な清掃作用でもあるのです。

護のお願いしてくれ、父は浄霊をしてくれました。おかげ様で、御守護のお願いの電話が終わり、母が部屋に戻ってきましたとスツと息をすることが出来ました。その後も両親は浄霊をしてくれました。その一週間後も息が出来なくなることはありませんでしたが、御守護のお願いをさせていただき、浄霊を受けるとすぐに息が出来るようになりました。翌日は体育祭でしたが、無事参加することも出来、何の影響もなく済みました。本当に明主様を信仰してよかったと思う瞬間だったと思い、感謝の想いでございます。誠に有難うございます。（台湾 高雄市）

自然農法

明主様の御教え

無肥料栽培

私は今無肥料栽培に就き解説するにあたって先づ根本理論から説いてみるが、抑々土とは何ぞやといふ事である。言ふ迄もなく人間生命を保持すべき最重要なる五穀野菜を生育すべく、造物主が造られたものに違いない。従つて土そのものの本質は神秘幽玄なるものであつて、現在までの唯物科学によるも到底窺知し得ない事は論をまたない感である。然るに今日迄の農業は不知不識邪道に陥ちいりたる結果土の力を蔑視し、一切の作物をより良く生育するには糞尿又は化学肥料等の人為的肥料に依らねばならぬと思ひ、今日に到つたのである。

然るに以上の如き結果は、土壌の本質は漸次退化変質し、土壌本来の生育力は衰耗するに拘わらず、それに気が付かない為、農作不良の原因は肥料不足に因ると錯覚し益々肥料を施すから土壌の力は愈々鈍化しそれを補わんとして肥料をより施す結果、今日の如く日本の國土は瘦地化し、農耕者の口を揃えて嘆ずる処である。

自然農法とは自然を尊び、愛情をかけて育てること、自然力を生かす農法です。

自然農法体験談



熊本支部 佐藤典二 (64)

今から約十六年前、私は新健康協会で自然農法の話聞いたことをきっかけに自然農法を始め、現在では二町五反(約七五〇坪)の田んぼと、三反(約九〇〇坪)の畑で米や野菜を育てています。

私が自然農法を実行していて気がついたことがあります。

それは「土の変化」です。

私は以前からあまり農薬を使いたくないと思つていましたので、極力使用しないようにしておりました。自然農法を始める前は、一年一年作物が作りにくくなつていへるに感じることがあり、土自体も年々厳しくなる気象条件についていけないように思うこともありました。しかし自然農法では、「本当に土の偉力が強いなあ：自然に戻ると、こんなにも土が違つてきて、これだけ作物の出来具合が変わつてきているんだなあ：」と感じます。その変化は私自身がびっくりするほどです。

また、その土のおかげでしょう。野菜を売る場合、少し余分に収穫し、残つた分は倉庫に入れておくのですが、十日から二週間ほど、そのままにしておいても傷んだり、腐つたりすることがないのです。自然に育つた作物は、それだけ生命力が強いのではないかと思います。

自然の素晴らしさ、土が出来ていく姿を目の当たりにし、本当にこの自然界というのは、うまく出来ているなあと思ひます。私は、自然に立ち向かうのではなく、素直に寄り添つていく生活そのものが大事であり、日本の農業が成り立つていく道ではないかと思ひます。

美の世界

美によつて人間の情操を高め、生活を豊かにし、人生を楽しく意義あるものにする事ができます。

歌川広重作

「近江八景」之内

《堅田落雁》

本作は歌川広重「近江八景」のひとつ、「堅田落雁」です。いまや落雁といえは上品な和の干菓子や餅を思い浮かべるかもしれませんが、ここでは渡り鳥である雁が湖面に降りてくる情景を指しています。雁は「がん」または「かり」と読み、まがみやかもなどを含んだ鳥の総称です。そう遠くない昔、雁は日本列島のほぼ全域で当たり前のように見られた冬鳥で、連なつて飛来する姿は季節の移り変わりを告げる風物詩でした。万葉集の頃から和歌に詠み込まれており、雁や落雁は秋の季節となつていきます。

峯あまた 越えて越路に まづ近き
堅田になびき 落つる雁がね

画面左上にはこのような歌が記されています。描かれている堅田は琵琶湖西岸、湖上交通の要衝として栄えた地。越路は越の国へ行く道、北陸道の古称です。雁が北から冬を連れてやってきたその道程までも想像が広がります。湖面にはいくつもの帆船が浮かび、夕暮れ時の気忙しさが伝わってくる一方で、広い空と雄大な山のさらにはるか高いところから雁の群れが降りてくる様子は、この風景のスケールの大きさ、そして幾度も繰り返されてきた悠久の時の流れすら感じられます。

左中ほど、湖に突き出した橋の先には臨濟宗



解説 松田愛子

この地は近世から近代にかけて行楽や参詣に訪れる名所となり、俳人も多くの句を残しました。《堅田落雁》に描かれているのは、由緒ある古刹や秋から冬へめぐる季節、一日の終わりを実感する夕暮れの風景ですが、みえるものを通してみえないものも仄めかされているようです。そしてそれが可能なのは「うた」によつて受け継がれてきた情景があるからだと思ひます。

晴明会館

「伝承の趣」前期展
期間…6月1日(水)〜12月13日(火)

※晴明会館お問い合わせ ☎092)661-1535

健康新聞についてのお問い合わせは (092)661-1531まで